

新潟県小中学校教頭会

# 会報

No. 183

## 目次

●会長あいさつ	1
●副会長あいさつ	2
●本部役員紹介	3
●県教頭会研究大会に向けて	4～5
●専門部の活動	6
●郡市教頭会ネットワーク	7
●新入会員の声	8～9
●随想	10



## 先を見通し、新たなステージへ 前進する教頭会

新潟県小中学校教頭会

会長 西條 敏一

(上越市立稲田小学校)

平成29年度 新潟県小中学校教頭会の会長を務めさせていただくことになりました。会員の皆様のご支援・ご協力をいただき、関係諸団体と連携を図りながら、子どもたちの豊かな成長に一層貢献していく教頭会を目指していきたいと考えております。

さて、平成29年3月に文部科学省から「新学習指導要領」の公示がなされました。子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力とは何かを社会と共有することや、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成することが求められます。さらに、道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体の育成も重要です。

今年度は、新しい学習指導要領について、全学校、全職員に周知徹底する年度とされています。そして、平成32年度本格実施までにやるべきことも明らかにしていかなければなりません。

これからの激動の社会を生き抜く子どもたちには、自ら考え、学校内外の多様な人々と協働しながら（協働）、主体的に課題を解決し（自立）、新たな価値を創造する力（創造）が求められています。このような力を育むために、学校・家庭・地域の連携をさらに促進し、協働型・双方向型の新しい学びへの移行が必要になってきます。私たち教頭は、学校の教育課題を的確に把握し、常に先を見通し、職員をリー

ドしていかなければなりません。

新潟県小中学校教頭会は、小中学校教育の発展を目指し、研究活動を中核に据え、会員相互の交流を重視した活動を次の3点において進めていきます。

まず、全国公立学校教頭会第11期の研究がスタートします。研究主題「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育 キーワード 自立・協働・創造」を受けて設定した当県独自のサブテーマ「主体的に学び、たくましく生き抜く子どもを育む学校づくり（1年次）」の達成に向け、第53回全県研究大会上越・妙高大会を開催します。

そして各郡市教頭会において会員同士の交流と連携を深め、充実した組織活動と効果的な会務運営を推進します。また、新任教頭への必要な支援を行い、教頭職全体の資質・能力の維持・向上を図ります。

さらに平成31年度に新潟市での開催予定の関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会に向けて、準備委員会による計画・準備を進めます。

私たち教頭は、校長の学校経営方針の下、児童生徒の教育に取り組むよう全力を尽くしています。求められるのは、組織的に連動する体制づくりと地域、保護者との連携協力、教職員の育成です。これは、教頭に課せられた重要な課題です。教頭会として常に会員相互の連携を図り、協力しながら取り組んでいきたいと思います。それが子どもたちの資質・能力育成につながります。



## 「他に学ぶ機会をつくる 教頭会」

副会長 石野 光一  
(上越市立雄志中学校)

今年度、副会長の任を務めさせていただきます。これまで教頭会の役員とは無縁でしたが、県教頭会研究大会等で、いろいろと恩恵を受けてきました。過去に何度か県全体や地区ブロック別研究大会や関東ブロックの研究大会に参加し、見識を深めることができました。教頭として日々自校の事務仕事や職員への対応に追われている自分にとって、他の教頭に学ぶ機会は貴重です。昨年度は県教頭会上越ブロックの柏崎大会でつたない内容でしたが、提言させていただきました。多くの方からご協力やご示唆をいただき、自分がこれまでやってきたことの整理と今後の方向性を確認する良い機会となりました。

今回、副会長となったことで、県教頭会が関東ブロック・全国教頭会との連携はもちろん、県同和教育研究協議会や日本教育会等の教育団体とも密接な連携関係にあることを知りました。自分にも参加の機会があり、広い視野から多くのことを学びたいと考えています。

今後はより多くの教頭先生方にとって県教頭会の活動が「他に学び、自校の組織マネジメント等に反映させることのできる」機会となるよう、会の運営に微力ながら力を尽くさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。



## こんな時こそ教頭会のネットワークを 活用していきましょう

副会長 西本 直史  
(長岡市立表町小学校)

昨年度3月末に新しい学習指導要領が告示されました。小・中学校それぞれの全面実施に向けて、いよいよ本格的に準備を始めなければなりません。

同じ3月末、働き方改革実現会議による働き方実行計画が公開されました。長時間勤務の是正が大きく取り上げられ、本県でも「教職員の勤務実態把握とアクションプランの自校化」「最終退勤時刻午後

7時を目指した業務改善と意識改革」の2つを基本方針として、各校での取組が求められています。この他にも、いじめ根絶の取組、職員の非違行為の根絶、多様な考え方をもつ保護者への対応など、私たちの目の前には課題が山積している状況です。

このような中、教頭会のもつ意義について改めて考えてみました。それは、一人職である教頭同士が集い、同じ立場にあるものとして課題を共有し、研修や交流を通して課題解決の道を自ら切り拓くことではないでしょうか。それぞれの学校で困ったとき、同じ立場の仲間に気軽に相談し、話し合い、共感できるようなネットワークを県及び郡市教頭会で、一層重視していかなければなりません。

大きな変革の時期、こんな時こそ、仲間とのコミュニケーションを大切に、それぞれの学校運営に生かしていきましょう。



## チームと絆づくり

副会長 牧野 剛  
(新潟市立東新潟中学校)

今年度、新潟県小中学校教頭会の副会長を務めさせていただきます。本部役員になる前は、理事・代議員の経験もなくこの職責を果たせるのか大変不安を抱いていました。

しかし、役員引き継ぎ会・本部役員会を重ねるにつれて、各専門部長の皆様、各地区庶務幹事の皆様の業務内容を徐々に理解することができました。同時に714人の会員お一人お一人のために、多大な汗を流していることもわかりました。ありきたりですが、「チーム役員」として絆を大切にして、今年度の事業に全力を尽くすとともに、その頑張りを会員の皆様へ具体的にお伝えできるよう頑張っています。

また、平成31年度に開催される関ブロ新潟大会の準備委員長として「チーム準備委員」の絆づくりにも全力で臨みます。「豊かな人間性と創造性を育み 未来を拓く学校教育」（キーワード：自立・協働・創造）の基、新潟県らしさをどうアピールすることができるのか、新潟県の子どもたちをどういう姿に育てていきたいのかを会員の皆様にご提案できればと思います。よろしく願いいたします。

平成29年度 **本部役員紹介** (役職・氏名・現任校)

**本部役員**



幹事長  
**瀧澤 幹愛**  
(上越・高士小)



会計幹事  
**竹内 聖子**  
(上越・保倉小)



地区庶務幹事  
**戸田 義隆**  
(上越・牧小)



地区庶務幹事  
**稲毛 真哉**  
(長岡・千手小)



地区庶務幹事  
**下村 佳之**  
(新潟・赤塚中)



地区庶務幹事  
**高橋 学**  
(村上・荒川中)

**監査役員**



会計監査  
**丸山 文雄**  
(妙高・新井南小)



会計監査  
**松井 浩一**  
(長岡・川崎小)



会計監査  
**横山 学**  
(新潟・白根第一中)

**事務局**



事務局  
**脇屋 雅実**

## 第53回 新潟県小中学校教頭会研究大会 上越・妙高大会に向けて



研究部長 小島 隆宏  
(上越市立春日小学校)

### 第53回研究大会に向けて

平成29年度、県教頭会の研究部長を務めることとなりました、上越市立春日小学校 小島 隆宏です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度で3年目の研究部長を務めることになりました。気持ちも新たに第53回研究大会に向けて取り組んで参ります。

今年度は、全国公立学校教頭会第11期研究活動の初年度になります。10月27日（金）に全県研究大会を開催し、6課題14分科会に分かれて研究発表及び協議を行います。

第11期の研究では、自立・協働・創造に向けた子ども一人一人の主体的な学びを保障する学校づくりが重要です。今年度は、3年に1度の全県大会です。昨年度までの第10期研究の成果と課題を踏まえて、それを生かした研究大会となるよう、各提言者が単位教頭会での組織的な取組をもとに提言発表の準備を進めていってほしいと思います。そして、本番に向けてより分かりやすく、主張が明確になるように提言の検討が行われることを期待しています。

#### 1 研究主題

「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」  
(全国公立学校教頭会第11期統一研究主題)

#### 2 サブテーマ

～主体的に学び、たくましく生き抜く子どもを  
育む学校づくり～ (1年次研究)

#### 3 大会の趣旨

全国公立学校教頭会第11期統一研究課題「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」のもと、新潟県の今日的な課題を踏まえたサブテーマ「主体的に学び、たくましく生き抜く子どもを育む学校づくり」を追究する第11期の研究が始まります。

本大会は、第11期の初年度として「研究の継続性による成果と課題の焦点化」「研究の協働性の充実」

「教頭の関与性の明確化」をさらに充実させ、一人一人が大会に主体的に参加し、各学校及び各教頭会でなされた取組について協議します。互いの実践から学び、成果と課題を共有し、教頭としての資質向上を目指します。

4 主催 新潟県小中学校教頭会

5 後援 新潟県教育委員会 新潟市教育委員会  
(予定) 上越市教育委員会 妙高市教育委員会  
新潟県小学校長会 新潟県中学校長会  
上越市小学校長会 上越市中学校長会  
妙高市小学校長会 妙高市中学校長会

6 主管 上越市教頭会 妙高市教頭会

7 期日 平成29年10月27日（金）

#### 8 会場

<全体会> 上越文化会館  
<分科会> 上越文化会館 上越市民プラザ  
上越市教育プラザ 上越市商工会議所  
上越市春日謙信交流館

9 日程 10:00 開会式  
10:30 オリエンテーション  
10:50 記念講演  
12:10 昼食・移動  
13:15 分科会  
15:30 閉会式

#### 10 記念講演

<講師> 武蔵野学院大学  
国際コミュニケーション学部教授  
人間性脳科学研究所所長  
澤口 俊之 様

子どもや社会人が真に伸ばすべき脳力は何か。その脳力をいかに育成すればよいか。教育の混迷や人材の劣化が叫ばれる中、この問題への科学的解決に取り組むべく、世界に先駆けて「脳育成学」を創始し、人間性脳科学研究所を立ち上げ、自ら研究と実践に取り組んでいる。

11 分科会(6課題14分科会)

	課 題	提言教頭会
第1課題	教育課程(1合)小中合同 教育目標・教育理念に関する課題	長岡市三島郡小・中・ 総合支援学校教頭会
	教育課程(1A)小学校 教育課程に関する課題	新潟市・北蒲原郡小中教頭会 全国・関プロ大会提言
	教育課程(1B)中学校 教育課程に関する課題	南魚沼郡市教頭会
第2課題	子どもの発達(2A)小学校 子どもの発達に関する課題	村上市岩船郡小中学校 教頭会
	子どもの発達(2B)中学校 子どもの発達に関する課題	佐渡市中学校教頭会
第3課題	教育条件整備(3(1))小中合同 施設・設備及び事務に関する課題	見附市教頭会
	教育条件整備(3(2))小中合同 教育行財政に関する課題	柏崎市刈羽郡小中学校 教頭会
	教育条件整備(3(3))小中合同 PTA及び地域社会に関する課題	東蒲原郡小中学校教頭会
第4課題	組織・運営(4A)小学校 組織・運営に関する課題	佐渡市小学校教頭会
	組織・運営(4B)中学校 組織・運営に関する課題	十日町市・中魚沼郡 小・中学校教頭会
第5課題	教職員の専門性(5A)小学校 教職員の専門性に関する課題	新潟市小学校教頭会
	教職員の専門性(5B)中学校 教職員の専門性に関する課題	糸魚川市教頭会
第6課題	教頭の職務(6A)小学校 教頭の職務に関する課題	魚沼市小中学校教頭会
	教頭の職務(6B)中学校 教頭の職務に関する課題	上越市教頭会 妙高市教頭会

12 研究の基本方針

全公教の基本方針並びに全国統一研究主題を踏まえ、今年度も次の3点(3C)に焦点を当てた実践的な研究を進めていきます。

- (1) 客観的で継続性のある研究 **continuity**
- (2) 組織的で協働性のある研究 **collaboration**
- (3) 教頭としての関与性を明確にした研究 **commitment**

この3Cを基本方針として、視点を明確にした鋭角的な研究を進め、教頭としての資質向上につなげていきたいと考えています。

13 研究内容について

第2期教育振興基本計画の前文に、『今正に我が国に求められているもの、それは、「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」である』と示されています。第11期の研究では、自立・協働・創造、に向けた児童・生徒一人一人の主体的な学びを保障する学校づくりがより重要であると考え、その教育活動の中核となる教頭の在り方を追究するた

め、サブテーマ「生涯にわたって能動的に学び続ける子どもを育む学校づくり」を設定しました。

新潟県小中学校教頭会では、「生涯にわたって能動的に学び続ける子ども」とは、次のような資質や能力を備えた子どもであるととらえています。

- (1) 多様な個性・能力を伸ばし、充実した生活を主体的に切り拓くことができる子ども  
→ 「自立」する子ども
- (2) 個人や社会の多様性を尊重し、共に支え合い、高め合うことができる子ども  
→ 「協働」する子ども
- (3) 自立・協働を通じて新たな価値を創造していくことのできる子ども  
→ 「創造」する子ども

これからの激動の社会を生き抜く子どもたちには、自ら考え、多様な人々と協働しながら主体的に課題を解決し、新たな価値を創造する力が求められています。このような力を育むために、学校・家庭・地域の連携をさらに促進し、協働型・双方向型の新しい学びへと移行させていかなければなりません。

よりよい方向を目指した教育課程・教育活動の改善と充実、教師の資質・能力、指導力の向上に取り組んでいきましょう。そして、学校が保護者や地域社会と協力・連携し、ともに歩んでいきましょう。

----- お願い -----

- (1) 今年度は、全県の研究大会です。全教頭が主体的に参加するようお願いいたします。  
会員一人一人が、研究大会のより一層の充実を目指し、大会要項の精読・協議の柱の確認などを行ってください。
- (2) 平成30年度は、研究大会ブロック別研究大会が行われます。29年度中に、課題配当予定に従い、30年度の研究大会の組織づくりを確実に進めていただきたいと思ひます。
- (3) 平成31年度は、新潟市を会場にして、関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会(第55回新潟県小中学校教頭会研究大会)が行われます。

大会の成功に向け、計画的な研究推進をお願いします。

-----

# 専門部活動報告



## 教育課題部の活動

教育課題部長 星 徹  
(長岡市立東中学校)

新潟県の「最重要教育課題」の解決に向けて、教頭として、どう取り組むべきかを示していきます。具体的には、ご協力いただきました教育課題アンケートの集約結果の分析を通して行います。

第11期全国統一研究主題「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」の全国共通研究課題に沿ってアンケートを作成しました。『研究の手引き』（全国公立学校教頭会）を基に、サブテーマ追究の窓口と実践の視点の選択肢を検討しました。

今年度は、第53回新潟県小中学校教頭会研究大会に向け、現在の会員が抱える問題に焦点付け、調査を実施します。会員の取組・実践のアンケートの項目を精査し、課題解決に向かいながら有効な方策がなく困っている内容を明らかにすることを通して、来年度以降の教頭会の課題・研究の参考資料としたいと考えました。

回答いただいた内容は、今後、教育課題部で集約・分析し、県小中学校教頭会のホームページや年度末発行の『教頭の勤務実態調査及び教育課題意識調査』（調査要請部と合同作成）で発表します。



## 調査要請部の活動

調査要請部長 坂内 徹  
(新潟市立笠木小学校)

次の2つの事業を柱に活動を展開します。

- 1 勤務実態調査(本県独自)及び全国公立学校教頭会個人調査実施と報告書の作成
- 2 「平成30年度新潟県義務教育の振興に関する要望書」の基礎資料作成のための調査実施と意見報告書作成

昨年度末に発行した報告書から、勤務状況の一部を紹介します。報告書によれば、朝7時以前に出勤

している会員の割合が46.3%、夜20時30分以降に退勤する割合は33.2%と増加傾向にあります。また、睡眠時間5時間未満の会員の割合が14.8%でした。報告書からは勤務の厳しい実態が明らかになっています。この実態を関係機関に訴え、全公教とも連携して勤務条件の改善につなげていきたいと考えています。

10月には、8月下旬に県校長会から示される「県義務教育の振興に関する要望書」の要望事項に合わせ、アンケート調査を実施します。私たち県教頭会の要望が次年度に反映されるよう、会員の皆様の忌憚のないご意見をよろしく願います。



## 714名の会員のネットワークをつなぎ・紡ぐ広報活動として

広報部長 平野 浩一  
(糸魚川市立糸魚川東小学校)

私たちは、県内各地で地域の特色を生かしながら、県の教育課題解決に向けて尽力しています。広報部として、県教頭会の活動をはじめ、県教頭会研究大会に向けた取組や郡市教頭会の取組などを、会報の発行を通じて紹介していきます。

183号…本部役員の紹介と挨拶、県研究大会に向けて、専門部の活動予定、郡市教頭会の紹介、新入会員の声、随想

184号…県研究大会に向けて、全公教埼玉大会参加報告、郡市教頭会の紹介、新入会員の声、特集（長岡三島郡）、随想

185号…県研究大会参加報告、郡市教頭会の紹介、専門部活動報告、新入会員の声、特集（新潟市中）、随想、教育懇談会報告

今年度の「特集」は、「次期新学習指導要領を見据えた学力向上」について、特色ある取組を2つの教頭会から紹介していただく予定です。

会報の発行に際し、例年どおり郡市会長から執筆者の選定及び原稿依頼をお願いし、会員の皆様からは、ご多用中、原稿執筆等にご協力いただきます。714名の会員のネットワークをつなぎ・紡ぐという目的が達成されるよう、広報部員で協力して会報を編集していきます。どうぞよろしく願いいたします。

# 郡市教頭会ネットワーク



## 「お互いの顔が見える」 チーム教頭会を目指して

糸魚川市教頭会  
大塚 均  
(糸魚川市立能生小学校)

糸魚川市教頭会は、小学校16校、中学校4校、特別支援学校の教頭21名で組織しています。学校教育の振興のため、各学校と関係諸機関とが連携を密にとって事業を行っています。

### 1 開かれた組織づくり

4月に春季総会を行い、役員・事業計画を決定します。また9月には秋季総会を行い、研究大会等での発表リハーサルや今日的な教育課題等について研究推進部が中心となり、研修を行います。総会後は、共に励む仲間と打ちとけた情報交換会をします。

地区理事は、4つの中学校区から選出され三役と年間4回の理事会を開催、情報交換を行って年間事業の円滑な進行に努めます。少人数の良さを生かして、お互いの顔が見える教頭会を目指しています。

### 2 研修による資質の向上

秋季研修会の他、各中学校区では教頭が定期的集まり、研修・情報交換会を開催しています。各種研究大会発表に向けての実践の蓄積と改善・評価、学校事務職員の方との業務改善に関する研修会等を通してチーム教頭会としての連携を大切にしています。また、県教頭会や関東ブロック研究大会、中央研修大会等の参加報告をレポートにまとめ、製本しています。受け身にならない研修への構えが管理職としての指導力を高め、資質向上に役立っています。

### 3 各園・学校、関係諸機関との連携

当市では、「0歳から18歳までの子ども一貫教育」に全市をあげて取り組んでいます。園と小中高のスムーズな連携が子どもたちの健やかな成長の後押しをします。一貫教育の進展に向け、各園や高校との連携に力を入れています。また、市教育委員会と連携し情報交換会を開催しています。学習指導や生徒指導に関わって関係機関、専門家を交え、実践を見て講話を聞き、課題解決への具体策を見出しています。学校間の連携、学校と行政の連携、子どものために協働する強いネットワークが築かれています。



## 温かい絆による 連携・協働

胎内市小中学校教頭会  
小野沢 謙一  
(胎内市立中条小学校)

胎内市小中学校教頭会は、「人が活きる、人が輝く、交流のまち“胎内”」で活動しています。小学校5校、中学校4校、計9校で組織されている小規模な教頭会です。今年度は、新任教頭3名を迎えました。

### <強い連帯感>

昨年度は、県小中学校教頭会下越Bブロック研究大会において、キャリア教育の取組を発表しました。発表者任せにすることなく、全員で2年間にわたって計画的にキャリア教育の研修を進め、積み上げてきた実践を発信しました。小規模のよさを生かした、まさに「一枚岩」の強さを発揮しました。

### <充実した研修>

毎年、胎内市教育委員会教育長様より、直接御指導をいただいています。今年度は、胎内市が進めている「コミュニティ・スクール」について研修しました。また、教育委員会管理指導主事様、胎内市校長会長様からも、直接御指導をいただくなど、貴重な研修を積み重ねています。

一方で、定例の研修会も充実しています。「危機管理体制」「校務支援システムの活用」等、喫緊の課題をタイムリーに取り上げ研修しています。5月は、「非遵行為根絶研修会」について資料を持ち寄り、情報交換を行いました。自校の参考となる点が多々あり、有意義な研修となりました。

### <会員相互の連携>

研修だけでなく、会員相互の親睦を深めることも大切にしています。各種懇親会はもちろんですが、困ったことがあるとお互いに連絡を取り合い解決します。ネットワークのよさも、当教頭会の自慢です。「授業が変わると学校が変わる」「校長が変わると学校が変わる」という言葉をよく耳にします。では、「教頭が変わると」どうなるのでしょうか？「教職員が変わる」「地域が変わる」と言い切りたいものです。

今年度も、当教頭会はお互いのよさを認め合い、支え合いながら研鑽を積み、温かい絆で深く結び付き、胎内市の教育の発展に寄与してまいります。



## 「子どもが真ん中」

柏崎市立比角小学校

中村 正人

「いのちを大切にし やりぬく子」これは比角小学校の教育目標です。命の尊さが問われる現代において、この目標は昭和45年に制定され、以来ずっと「いのちを大切にする」ことを学校の中心に据えた教育を進めてきました。

いのちを大切にすること、自分を大切にすること、そして子ども一人一人が大切にされるということでもあります。子どもたちの中には、国語、算数、音楽が得意な子がいます。挨拶や言葉遣いのよい子、人に優しくできる子、人を笑わせるのが得意な子、掃除を一生懸命にする子、いろいろな子どもがいます。それぞれのよさを認め、褒めることで自信と夢や希望がもてるよう、一人一人を大切にしたい教育活動をこれからも積み重ねていきたいと考えております。また、今年から保護者をサポーターと呼びすることとしました。『子どもが真ん中』を合い言葉に、地域の力をお借りしながら、サポーターと学校とが協働し、職員とともにオール比角で子どもたちを育てていく環境づくりを進めていきます。

正直、まだまだ慣れぬ毎日に戸惑うことばかりです。校長先生、先輩の教頭先生方からご指導をいただきながら業務に邁進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 「新任」され、「信任」される 教頭を目指して

三条市立栄中央小学校

上村 寿彦

これまでに「新任〇〇」という立場を何度か経験しましたが、今回ほど大きな不安と緊張、そして周りの期待を感じる「新任」はありませんでした。

「よし、がんばるぞ！」と新たな気持ちで赴任した4月、校長先生から丁寧なご指導をいただきながら、次から次へと押し寄せてくる文書の処理、様々な報告物、数多くの行事等をこなしていくとやりきった達成感の中に、自分の至らなさからくる悔しさが混在する日々でした。

教頭はネットワークが大切であると書籍に書いてありました。日々の執務から学校経営にいたるまで、様々な場面での情報交換は欠かせません。子どもたちを中心として、地域の方々や保護者の皆様、校長先生をはじめとする先生方、行政の皆様方とのネットワークを大切に、「新しいことを任せてもらえる」新任教頭と同時に、「信じて任せてもらえる」信任教頭にもなれるよう、日々努力していきたいと思っております。



## 「花を育て 花に学ぶ」

長岡市立桂小学校

川瀬 由美子

かわいいピオラのプランターが並ぶ玄関、白とピンクのサクラソウのプランターが並ぶ体育館、きれいに清掃されている校舎内。桂小学校の第一印象は、「なんてきれいな学校だろう」というものでした。花の栽培活動が盛んで、「花いっぱいコンクール」では毎年入賞をしています。

予想に違わず、子どもたちは明るく、優しい働き者でした。「花を育て 花に学ぶ」という学校のモットーが生かされていることを日々実感しています。すばらしい環境の中で、教頭としての一步を踏み出したことをとてもありがたく思っています。それと同時に、教頭としての責務の重さも感じられ、身の引き締まる思いもしています。

仕事に追われる毎日ですが、周囲の人々、仕事への誠実な対応を心がけ、花と子どもたちを育てながら多くのことを学んでいきたいです。



## 「あいのある学校」 実現のために

魚沼市立堀之内小学校

岩澤 勝

4月より新任教頭として、魚沼市立堀之内小学校に赴任いたしました。当校の合い言葉は「みとめあい ささえあい たかめあう あいのある学校」です。職員はもちろん、全児童そして保護者の皆さんがこの合い言葉を覚え、「あいのある学校」実現のために、連携し合い教育活動を展開しています。

特に私は教頭として、保護者や地域の皆さんと学校とが連携を深めていけるように、地域の歴史や文化、人情といった「地域あい」を探り、感じているところです。また、職員間のつながりを深めるために、職員の良いところを見つめ合い、もっている力を発揮し合えるような「職員あい」を広げ深めていこうと、尽力しています。

新米教頭として、まだまだ手探りですが、様々な「あいのある学校」の実現のために精一杯がんばります。御指導よろしくお願いいたします。





## 「己千(きせん)の心とともに

新潟市立女池小学校

山田 淳

「人が一度でできることは、自分は百度やってみるようになる。人が十度やってみることは、自分は千度やってみる。このようにしていけば、どんな分からないことでも分かるようになるし、身体の弱い人であっても強くなっていくであろう。どんなことでも、くじけないでやり抜くことが大切である。」

これは、4月に赴任した女池小学校で大切にしている「己千(きせん)」の心です。明治7年の創立以来、144年たった現在でもこの心は脈々と受け継がれています。

教頭としての仕事を十分にできているとは到底言えない自分ですが、この「己千」の心を忘れず、一つ一つ、一日一日の仕事を丁寧に、あきらめずに、精一杯努めていく所存です。そして、職員や地域、子どもたちを支える力のある教頭を目指します。



## 変化を楽しみなさい

阿賀野市立笹神中学校

臼井 政之

「身体には十分気を付けてね。無理はしないでね。」

3月末、会う人会う人、口を揃えるように言う。それほど、教頭という役職に対するイメージはマイナス面ばかりが目立っている。かくいう私も、不安ばかりの3月を過ごしていた。役職が変わるだけでなく、校種も小学校から中学校へと変わるのである。

憂鬱な毎日を送っている私に、尊敬する先輩方は、たくさんの勇気づけのメッセージをくださった。

「環境が変化することを、存分に楽しみなさい!」「誰でもいいわけじゃない。あなただから選ばれたんだよ。他の人ができない貴重な経験になるよ。」

教頭として、2か月が過ぎた。確かに日々激務であり、疲労が蓄積する。しかし、それ以上に楽しい。不安だらけだが、新鮮なことの連続であり、わくわくする毎日である(今だけなのかも…)。現任校に赴任できたことを本当に幸せに思う。感謝。



## 粟島の地域連携の要として

粟島浦村立粟島浦小学校

平山 裕也

「粟島はとにかくいい所。しっかりと島に尽くして来い。」赴任が決まった後、粟島で勤務経験がある前任校の校長と教頭から激励されました。

粟島に赴任して2か月、地域の人々の温かさ、そして学校への関心の高さを様々な場面で見ます。例えば、5月のマラソン大会。スタート時刻を村内放送で知らせると、仕事の手を止めて全校の2倍以上の村の人たちが、応援のため道路に出てくれました。島の子もだけでなく、しおかぜ留学の子どもたち(小中で13名)へも、学校だよりの写真を見ながら名前を呼んで応援してくれました。おかげで子どもたちは最後まで走りきることができました。

学校と地域が強く結び付いていることは学校経営上、大変重要なことです。村の皆さんから協力いただいている分、私は教頭として粟島のために尽くし、子どもたちへ還元できるよう頑張ります。



## 「100点」の教頭を目指して

佐渡市立南佐渡中学校

本間 学

4月3日に勤務校に着任した瞬間から「教頭先生」と呼ばれるようになりました。教頭という肩書きで行う仕事は、すべてが初体験で、手探りの毎日です。職員から学習指導や生徒指導等に関わる相談や質問がたくさん出されても、それらに的確に答えられないこともあり、自分の非力を痛感することが度々でした。

しかし、校長先生はじめ職員の皆さん、さらには保護者、地域の方々に助けられながら、新米教頭としてこの3か月を乗り切ってきました。点数を付けるとしたら、ぎりぎり及第点(60点)といったところでしょうか。

至らぬ点だらけの現在ですが、自分の力量を高め、一日も早く、校長先生や職員を助け、保護者や地域を支える学校の要となれるように、そして、自信をもって100点と言える教頭を目指し頑張ります。

## 随 想



## 「今」を楽しむ

上越市立春日新田小学校

齋藤哲生

「今」を楽しみながら、仕事に当たりたい。現在、この気持ちで日々を送っている。

現任校は全校児童約800人の大規模校であり、将来的な児童数増が見込まれることから、来年度新設される有田小学校と分離することになった。また、近隣の学校がその新設校に統合する。言わば「分離統合」の形式になる。そのための仕事に今、取り組んでいる。

改めて感じることは、分離統合に伴う施設管理、備品の移行のハードウェアはもとより、教育課程編成や学級編成等には十分な配慮が必要だということである。また、行政機関との連携はもとより地域の協力を得ることが不可欠となる。

そのような状況下ではあるが、子どもたちと職員が分離統合に向けて前向きに取り組んでいることに日々活力をもらっている。地域の方々からの期待も感じる。また、同じ教頭職の皆さんからは、いつも温かい励ましをいただいている。この仕事に当たることで見えてくること、自分自身、成長することがある。そのような期待をもちながら、今を楽しむことを心がけていきたい。



## 日本人の心

加茂市立七谷中学校

林 克也

柔道の「山下監督が目指したもの」という道徳資料を目にした。

篠原信一選手の誤審による試合について、「負けたのは、俺に本当の力がなかったからだ」と言った事に対し山下監督は「人を責める前に、もっと自分に出来ることがあったんじゃないか。そんな思いをもっていただけのような言葉になったのではないか。我々は、本来あるべき日本の心をもっともっと大事にしていかなければならない」と話されました。野村忠宏選手がオリンピック2連覇を達成した翌日のエピソードで、他の選手の付き人として様々な世話をし、負けた選手の柔道着をものすごく大切に、宝物を扱うように丁寧にたたんでいたことに対して「前回のオリンピックで優勝した後、怪我があったり、やめたいと思ったり、いろいろなことを乗り越えてきた野村、強さだけでなく人間的にも一回りも二回りも素晴らしくなった。柔道着を丁寧にたたむあの姿を日本の柔道家に見せたい」と話されました。山下監督は、日本代表チームの監督として、「最強の」選手づくりではなく、「最高の」選手づくりを目指していたそうです。

日本人の心について、考えなおさせていただいた文章でした。

平成29年度  
各種大会日程

- 1 日本教育会県支部理事会総会(じょいあす新潟会館) 7月8日(土)
- 2 全国公立学校教頭会研究大会 埼玉大会(関プロ研究大会を兼ねる)  
8月2日(水)~8月4日(金)
- 3 県同和教育研究集会 新潟市 8月3日(木)
- 4 第53回県小中学校教頭会研究大会 10月27日(金)
- 5 第42回全国公立学校教頭会 中央研修大会 2月9日(金)

\*各研究大会への参加ご協力ありがとうございます。よろしく申し上げます。

新潟県小中学校教頭会  
[事務局]  
県教頭会ホームページ  
全国公立教頭会ホームページ

〒950-0911 新潟市中央区笹口2丁目7-17 和田ビル2F  
E-mail n-kyotoh@crest.ocn.ne.jp TEL (025) 244-8225  
http://kenkyoto.ngt.ed.jp/ FAX (025) 244-5060  
http://www.kyotokai.jp/